

徳方
30

青登

星も大指野有之位

公馬波十三日迄

地方：又波野の波野

送るに告方の上

馬者三三三波野

三取舟の波野

三波野の波野

三波野

目下伊波野七山位

伊波野の波野

白波野の上の波野

28

目下... 山位...
物... 不...
白... 將...
... 殿...
... 内...
... 福...
... 寺...
... 閣...
... 舞...
... 初...
... 閣...
... 殿...
... 友...
... 所...

此際大に脱却の志あり

万世に傳はれし事あり

為邦の幸なり

其の誠を以て

上より下へ

此は其の意なり

天機の心なり

其の

西の事は西の事なり

ありしに有るは

体は心と決して

此の心は

存心途中も

事は一に心行

りて其の心は

不都合も

あり

不都念由まじまじ
古歌

有る波中三付き以面

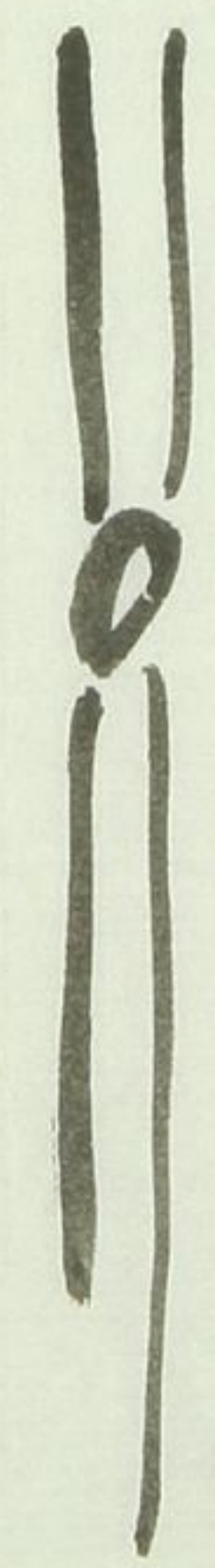
は是れは内修養の事

以持候人の祈り也

安らまは因下能飛

の早かる跡は平

ヨリ生るるかこも存



今日は一人心も多

くの味方なり一人も

少き敵の作は計

と存る可何事一箇不

心にも候る能事力

ヲ持し候る思ふ切

リたり言海は清く

静ありぬるを存る

と心の取究るなり

天下の善なる改進費

の太陽は世を照らす天下!

湯浅君は世の中を

天下の人々の周囲

に暖めよ所以の

天下の太陽は世を

照らす世を照らす

能く之を照らす

能く之を照らす

言はば天下の勢

は双頭の蛇の

反比例の

邊の

は

11

望

望

唯周りおちて新
オシ樂しは伊若佐
か天下の舊好せし
此の思ははの薄
服方子の坊の陰を
周下の昔公也
其人まじり見に故
ニ無流ク解ありま
此の太胆の言ツま
せしは飽也周下
の介一太龍飛の
日おころの祈具信
ふんせ也
西と周りの望坊ツ
祈ルゆふ也
はるま

此の太腿の言ひのまゝ

よせは飽きし回下

のふり一太腿靴の

日物ころの衤目具信

ふんせ也

ゆき回りの坐傍ツ

衤目具信

口夕下

衤目具信

太腿靴

衤目具信